

奈良国立文化財研究所要項

1 事業概要

1 研究普及事業

公開講演会

- (1) 1975年5月17日 第37回公開講演会
「石器づくりの技術
——サスカイト製石器の製作技術を
中心として——」

松沢 亜生

「古代住居再現」 細見 啓三

- (2) 1975年11月15日 第38回公開講演会
「海住山寺本堂壁画について
——十一面観音来迎図の一作例——」

百橋 明穂

「韓竈の実用と祭祀」 稲田 孝司

- (2) 1975年8月2日 藤原宮北門跡発掘調査現地
説明会 西 弘海
(3) 1975年8月30日 平城宮跡推定第一次内裏東
北部発掘調査現地説明会 川越 俊一
(4) 1975年12月6日 平城京左京三条二坊発掘調
査現地説明会 田中 哲雄
(5) 1976年3月6日 平城宮跡推定第一次内裏東
半部発掘調査現地説明会 中村 雅治

平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開
1975年4月27日～5月5日 見学者 4,815名
秋季特別公開
1975年10月25日～11月9日 見学者12,162名
(2) 見学者数

区 分	資料館	覆 屋	計
1975年	37,279	46,675	83,954
累 計*	177,416	379,589	557,005

*資料館は1970年度・覆屋は1968年度以降

現地説明会

- (1) 1975年7月5日 大官大寺中門跡発掘調査現
地説明会 甲斐 忠彦

2 1975年度文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研 究 代 表 者	交 付 額
一 般 研 究 (A)	大和における条系条坊の復原的研究	狩 野 久	9,100
一 般 研 究 (D)	木簡から見た奈良時代古文書の基礎的研究	横 田 拓 実	290
〃	古墳時代木製品の集成的研究	黒 崎 直	300
奨 励 研 究 (A)	敦煌壁画における仏教説話画の展開	百 橋 明 穂	330
〃	古代の呪術とその遺物	金 子 裕 之	280
海 外 学 術 調 査	海外学術調査の成果の整理・活用等に関する調査研究 (考古・美術関係)	横 山 浩 一	570

3 飛鳥資料館の運営

概 要

1975年3月15日に開館した飛鳥資料館は観覧者年間約10万人を数え、構内も着実に整備されるなど順調な運営を続けた。

開館後1年間のデータでみる限りでは、石舞台への入場者の約30%が資料館に入館しており、まだ知名度の低さを示している反面、学校関係の団体観覧の申し込みは順調に増加しつつある。5月3日(土)と5月4日(日)の両日全入場者に対

しアンケート調査を行った。回答者数887、(回収率78.2%)。年令・職業・居住地・飛鳥へ来た回数、資料館を何て知ったかの各項目と感想の記入を求めた。また11月からロビーに希望・感想を記入する設備を設けた。

展 示

第1展示室 常設展示(1974年度と同じ)

第2展示室 特別展示「飛鳥の寺院遺跡

——最近の出土品——
(1975.9.22～76.3.30)

普及

玄関正面のインフォメーションルームに、飛鳥関係図書を開架図書として書棚に並べ一般観覧者の参考に応じ、学芸室職員が、入館者の質問に応ずるインフォメーションサービスを行った。

展示関係のカタログとして『飛鳥の寺院遺跡Ⅰ—最近の出土品—』を刊行した。

入館者数

(1975.4.1～1976.3.31 開館日数306日)

	普通観覧	団体観覧	有料計	無料	合計
一般	47,187	27,064	93,704	4,714	98,418
小・中学生	6,674	12,779			
計	53,861	39,843			

資料の購入等

購入 伝百濟大田附近出土単弁蓮華文軒丸瓦、奈良市山村廃寺単弁重弁蓮華文軒丸瓦、扶余弥勒寺蓮華文軒丸瓦、西安寺蓮華文軒丸瓦、各1個

模造製作 重要文化財天人文甕(岡寺所蔵)1枚、重要文化財筑前国戸籍(文化庁保管)1幅、猿石(吉備媛王墓所在)4軀、瓦(岡寺軒平瓦・慈光寺軒丸瓦)2個

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修

地方公共団体において埋蔵文化財保護行政を担当する者に対して、埋蔵文化財の発掘調査及び保存についての専門的知識と技術について研修を行い、埋蔵文化財の保護に資することを目的として、次の研修を実施した。

- (1) 昭和50年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修
1975年7月21日～8月30日(参加者15名)
- (2) 昭和50年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺跡測量課程)
1975年10月20日～11月29日(参加者12名)
- (3) 昭和50年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺物整理課程)
1976年1月19日～2月28日(参加者16名)
- (4) 研修員受入
阿部 恵(宮城県教委文化財保護課)
1975年5月1日～7月22日
前井 一二(富山県立富山南高校教諭)

1975年8月1日～9月5日

田辺 勝美(東京大学東洋文化研究所助手)
古山 学(" " 技官)
千代延恵正(" " ")

1976年1月19日～1月31日

村山 斌夫(東北歴史資料館技師)

1976年1月12日～2月10日

調査指導

(北海道)開陽丸遺跡、(岩手)見分森自然公園内遺跡、(宮城)木戸窯跡群、多賀城跡、(群馬)十三宝塚遺跡、(石川)御経塚遺跡、(福井)鳥浜貝塚、(岐阜)美濃国分寺跡、(静岡)伊場遺跡、(愛知)大山廃寺跡、(三重)斎王宮跡、(和歌山)岩橋千塚古墳群、(兵庫)長越遺跡、伊丹廃寺跡、(鳥取)伯耆国庁跡、(島根)出雲国分尼寺跡、志谷奥遺跡、富田川河床遺跡、(岡山)平ル林遺跡、檜原廃寺跡、(広島)下本谷遺跡、草戸千軒町遺跡、宮の前廃寺跡、(佐賀)肥前国府跡、その他、埋蔵文化財取扱い研修会(群馬)

埋蔵文化財ニュース刊行

- 第1号 埋蔵文化財調査報告一覧(1973年度刊行分)8月20日刊
- 第2号 埋蔵文化財発掘関係統計(1972年度分)12月15日刊
- 第3号 都道府県における遺跡分布調査の現況3月1日刊

5 その他

委員会等

平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会

- (1) 総会 1975年5月15日・16日
於平城宮跡資料館
 - (2) 平城宮跡整備基本計画策定に関する小委員会
1975年9月27日 於平城宮跡資料館
 - (3) 平城宮跡整備基本計画策定に関する小委員会
1976年1月23日 於平城宮跡資料館
 - (4) 平城宮跡整備基本計画策定に関する小委員会
1976年3月19日 於平城宮跡資料館
- 第2回飛鳥資料館運営協議会
1975年5月9日 於飛鳥資料館
- 第1回木簡研究集会
1976年1月13日・14日
於平城宮跡資料館

奈良国立文化財研究所要項

外国出張

鈴木嘉吉 大韓民国における考古学的発掘調査の体制と方法の調査研究のため大韓民国へ派遣された。

1975年6月29日～同年7月6日

佐原 真 文部省在外研究員としてドイツ連邦共和国・ドイツ民主共和国・オーストリア・デンマーク・オランダ・連合王国に派遣された。
：ヨーロッパにおける出土遺物の分類整理及び分布論・年代論並びに歴史博物館の展示構想方法の研究のため。

1975年9月11日～同年11月10日

所内報の刊行

研究所の規模の増大にともない、所員が研究所の動向や事業の状況を常時把握しうよう6月から月1回所内報を刊行することとし、年度末までに7号を刊行した。

第3収蔵庫の完成

74年度着工した第3収蔵庫は75年度に入り完成し、7月に遺物整理および保存科学関係の諸室が庫内に移転した。また埋蔵文化財センターも仮にここに移転した。次いで3月、作業員控室が付設された。

協力事業等

- (1) 特別史跡高松塚古墳の保存施設設置工事並びに壁画修復に関する調査に、随時文化庁に協力した。なお保存施設竣工式が1976年3月29日に行われた。
- (2) 文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度からは当研究所が文化庁から支出委任を受けて買取事務を担当しているが、1975年度の状況は下記の通り。

区 分	面 積	購 入 額
1975年	31,790.98m ²	515,397,354 ^[円]
国有地合計	83,932.97	1,255,900,100

大蔵省より移管の1,404.92m²を含む。

II 図書及び資料

図書 32,766冊

区 分	種 別	購 入	寄 贈	計
1975年	和漢書	900	936	1,836
	洋 書	209	17	226
累計	和漢書	21,656	8,856	30,512
	洋 書	1,950	304	2,254

写真 134,923点

(1975年度末現在)

III 研究成果刊行物

1975年度刊行物

名 称	担 当 者
学報第25冊 平城京左京三条二坊	町田・岩本(主)・中村・加藤・稲田・金子・山本・佃
学報第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅶ	鈴木・佐原・狩野・宮沢・町田・森・小笠原・西・吉田・佃
学報第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ	横山・河原・鬼頭・木下・稲田・猪熊・安達・八賀・田辺・宮沢・石丸・水野・前沢
学報第28冊 研究論集Ⅲ	黒崎・猪熊・森・町田・山本
学報第29冊 木曾奈良井町並調査報告	鈴木・岡田・宮沢・細見・宮本・上野・中村・松本・福田
史料第10冊 日本美術院仏像等修理記録	田中義恭・星山・百橋
基準資料第3冊 瓦編3解説	平城宮跡発掘調査部考古第三調査室
概 報 他 奈良県五条の町並	岡田・宮沢・宮本・上野・中村・松本
異人館のあるまち神戸	岡田・牛川・宮沢・宮本・上野・中村・松本
阿波の民家	宮沢・天田・藤村
西隆寺発掘調査報告	狩野・村上・黒崎・甲斐・岩本(主)・藤原・菅原・東野・今泉・岡本・西・小笠原・吉田
平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報	田中(哲)・松本・岡本・川越・毛利光・狩野・綾村・佃
平城京左京八条三坊発掘調査概報	佐藤・田中・宮本・綾村・須藤・川越・山本・狩野・佃

奈良国立文化財研究所要項

前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復元的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢Ⅱ
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥蓋宮跡発掘調査報告
1961	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
	第14冊	レースと金亀舍利塔に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
	第18冊	小堀遠州の作事
1967	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物裂の成立
1971	第21冊	研究論集Ⅰ
1973	第22冊	研究論集Ⅱ
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
1975	第24冊	高山一町並調査報告一

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集(複製)
1955	第2冊	西大寺叡尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乘坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡 1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡 1 解説(別冊)
1970	第7冊	唐招提寺史料 1
1974	第8冊	平城宮木簡 2 図版・解説
1975	第9冊	日本美術院仏像等修理記録 1

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説

Ⅳ 機構・定員

機構の改正

1975年4月2日省令改正に伴い埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設。

定員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1974年度	1	22	7	62	92
1975年度	1	23	7	65	96

(増員内訳) 庶務部 1 埋蔵文化財センター 3

(減員内訳) 平城宮跡発掘調査部 1

Ⅴ 予算(1974年度)

歳	出	
		910,376,633円
人件費		279,444,633円
運営費		405,558,000
事業管理		4,185,000
一般研究		35,098,000
特別研究		2,223,000
発掘調査		263,301,000
宮跡整備管理		30,377,000
飛鳥資料館運営		41,457,000
埋蔵文化財センター運営		28,917,000
施設費		225,374,000

Ⅵ 施設

土地 23,371㎡(当所所管)

春日野地区 5,126㎡

飛鳥資料館 16,902㎡

資料館地区 1,343㎡

1,026,117.97㎡(文化庁所管)

平城宮跡地区 942,195㎡

(他に奈良県先行取得地71,190,066㎡がある)

藤原宮跡地区 83,932.97㎡

建物

建物	春日野	平城	藤原	飛鳥資料館	計
事務所	797	1,820	155	152	2,924
倉庫・収蔵庫	191	3,777	963	—	4,931
車庫	20	130	104	94	348
会議室	40	192	—	42	274
講堂	109	—	—	89	198
写真室	86	192	32	49	359
展示室	—	360	—	648	1,008
覆屋・展示棟	—	1,518	—	—	1,518
その他	200	1,427	135	1,520	3,282
計	1,443	9,416	1,389	2,594	14,842
重要文化財 旧米谷家住宅					198
合計					15,040

主要工事

坂野和信・宮川伴子
栗山伸司

(1) 施設整備

飛鳥資料館宿舍給排水工	2,125千円
第3収蔵庫改修工	15,500
飛鳥資料館宿舍周辺整備工	1,244
平城宮跡プレハブ内装工	1,600
平城宮跡プレハブ棟クーラー取設工	1,051
覆屋周辺電気整備工	1,850
飛鳥資料館宿舍囲障外取付工	1,323
藤原宮跡整理棟躯体工	2,000
“ 遺物整理棟内装工	2,120
“ キュービクル取設工	2,100

会計課課長補佐に昇任 日高 参夫
飛鳥藤原宮跡発掘調査部第二調査室長に昇任 鬼頭 清明
建造物研究室長に配置換 岡田 英男
平城宮跡発掘調査部遺構調査室長に配置換 宮沢 智士
飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に配置換 細見 啓三
埋蔵文化財センター長に配置換 横山 浩一
会計課専門職員に転任 森口 節之
文部省に出向(筑波大学助教授に就任) 長谷川 誠

(2) 平城宮跡地等整備

平城宮跡灌水施設工	11,000千円
“ 水銀灯取設工	1,800
“ 水路整備工	1,700
平城宮跡環境整備昭和50年度第1期工	38,000
藤原宮跡地整備第1期工	2,200
“ 第2期工	18,900

4月2日

埋蔵文化財センター研究指導部長に昇任 田中 琢
飛鳥藤原宮跡発掘調査部第一調査室長に昇任 猪熊 兼勝
埋蔵文化財センター研究指導部考古計画研究室長に昇任 松沢 亜生
平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任 横田 拓実

(3) 建設省近畿建設局委任工事

平城宮跡第3収蔵庫	181,420千円
飛鳥資料館植栽工	22,363

埋蔵文化財センター研究指導部主任研究官に昇任 伊東 太作
埋蔵文化財センター研究指導部遺物処理研究室長に配置換 工楽 善通
平城宮跡発掘調査部考古第二調査室長に配置換 八賀 晋
4月3日 文部技官採用 秋山 隆保
文部技官に転任 安田龍太郎
4月15日 飛鳥資料館庶務室長に昇任

Ⅶ 人事異動

(1975年4月1日～1976年3月31日)

4月1日	文化庁文化財保護部文化財鑑査官に転任 坪井 清足	
	東京国立博物館総務部施設課長に転任 根本 栄夫	
	会計課長に昇任 杉本 光司	4月3日
	飛鳥藤原宮跡発掘調査部長に転任 工藤 圭章	4月15日
	国立国語研究所庶務部会計課長補佐に転任 広瀬 二郎	4月17日
	文部事務官採用 西 徹	5月1日
	文部技官採用 毛利光俊彦	6月1日
	土肥 孝・松本修自	6月28日
	光谷拓実・木全敬蔵	6月30日
	事務補佐員採用 東田道代・宍戸雅子	7月15日
	研究補佐員採用 森 庸子・泉谷聖子	7月30日
	赤阪さよ子・福原まり花	8月30日
		9月1日

五十嵐春雄
岡本ひろみ
文部省に出向(京都工芸繊維大学学生課課長補佐に就任) 前田 和夫
6月1日 美術工芸研究室長に昇任 田中 義恭
6月28日 退職 金井 しん
6月30日 退職 岡本ひろみ
7月15日 事務補佐員採用 鳥田 郁子
7月30日 退職 中川 友子
8月30日 退職 藤村 礼子
埋蔵文化財センター研究指導部測量研

奈良国立文化財研究所要項

研究室に転任 亀井 伸雄
文化庁に出向（文化財保護部建造物課）
藤村 泉
9月30日 辞職 西 一典
10月1日 事務補佐員採用 中西千枝子
会計課課長補佐に昇任 森口 節之
10月27日 事務補佐員採用 石田賀代子
12月20日 事務補佐員採用 石谷 幸子
12月27日 辞職 寺田千鶴子
3月30日 辞職 北野 保・栗山伸司

Ⅷ 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号
昭和43年6月15日一部改正

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に次の機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行なう機関とする。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号、追加昭和43年6月15日
文部省令第20号、
昭和45年4月17日文部省令第11号、昭和48年4月12日
文部省令第6号、
昭和49年4月11日文部省令第10号、
昭和50年4月2日文部省令第13号、

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第2款 奈良国立文化財研究所

（所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

（内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、美

術工芸研究室、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

（庶務部の分課及び事務）

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

一 庶務課

二 会計課

2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一 職員の人事に関する事務を処理すること。

二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。

三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。

五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。

六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

3 会計課においては、次の事務をつかさどる。

一 予算に関する事務を処理すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。

三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。

五 庁舎の取締りに関すること。

（美術工芸研究室等の事務）

第127条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財及び工芸技術に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

2 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

3 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

（平城宮跡発掘調査部の六室及び事務）

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行なう。

3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにそれらの結果の公表を行なう。

5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部の二室及び事務）

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、第一調査室及び第二調査室を置く。

2 第一調査室及び第二調査室においては、それぞれ藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡（藤原宮跡を除く）に関し、次の各号に掲げる事務を処理するほか、その発掘調査を行なう。

一 遺構及び遺物の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表

二 遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表

三 史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表

（飛鳥資料館）

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行なう。

（飛鳥資料館の館長）

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する。

（飛鳥資料館の二室及び事務）

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行なうこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行なうこと。

三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行なうこと。

（埋蔵文化財センター）

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し調査研究及びその結果の公表を行なうこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行なうこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行なうこと。

（埋蔵文化財センターの長）

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

（埋蔵文化財センターの内部組織）

第135条 埋蔵文化財センター内に、教務室及び研究指導部を置く。

（教務室の事務）

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

（研究指導部の三室及び事務）

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、遺物処理研究室及び測量研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第133条各号に掲げる事務（他の室の所掌に属するものを除く）をつかさどる。

3 遺物処理研究室においては遺物の処理に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

4 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

職員 (1976年8月1日現在)

所属	氏名	官職	担当
庶務課	小川 修三	文部事務官 所長	
	服部 栄次	文部事務官 部長	
	音啓太郎	文部事務官 課長	
	岩本 次郎	文部事務官 課長補佐	
	井上 政和	文部事務官 係長	
	西 忠 利二	文部事務官	警務員
	木寅 忠雄	文部事務官	警務員
	森田 光治	文部事務官	警務員
	岡田 博晃	文部事務官	警務員
	栢本 安臣	文部事務官	警務員
	八幡 扶桑	文部技官	専門職員(併任)
	宮本 宣代	事務補佐員	
	港 中川かよ子	事務補佐員	
庶務課	杉本 光司	文部事務官 課長	
	吉田 博次	文部事務官 課長補佐	
	日高 参夫	文部事務官 課長補佐	
	加藤 建夫	文部事務官 係長	
	冬野 徹	文部事務官	經理
	前川 重子	事務補佐員	經理
	刀谷 純子	事務補佐員	經理
	吉田 和子	事務補佐員	經理
	西田 健三	文部事務官	用度係長
	小林 雅文	文部事務官	(併任)
	中川 重則	文部事務官	(併任)
	中西 建夫	文部技官	
	飯田 信男	文部技官	
東田 道代	事務補佐員		
石田 賀代子	事務補佐員		
日高 参夫	文部事務官	施設整備管理係長(併任)	
渡辺 康史	文部技官	(併任)	
奥村 未儀	文部技官	(併任)	
沖村 和子	事務補佐員		
美術工芸研究室	田中 義恭	文部技官 室長	彫刻
	百橋 明穂	文部技官	絵画
	星山 晋也	文部技官	工芸
	守田 公夫	文部技官	調査員(非常勤)
	森 庸子	研究補佐員	資料整理
建造物研究室	岡田 英男	文部技官 室長	建築
	細見 啓三	文部技官	(併任)
	宮本 長二郎	文部技官	(併任)
	上野 邦一	文部技官	(併任)
	牛川 喜幸	文部技官	(併任)
	田中 哲雄	文部技官	(併任)
	福田 敏男	調査員	(非常勤)
歴史研究室	田中 稔	文部技官 室長	歴史
	東野 治之	文部技官	(併任)
	綾村 宏	文部技官	(併任)
	菅原 正明	文部技官	(併任)
	田辺 征夫	文部技官	(併任)
	金子 裕之	文部技官	(併任)
	堀池 春峰	調査員	(非常勤)
			歴史

所属	氏名	官職	担当	
平城宮跡	鈴木 嘉吉	文部技官 部長		
	町田 章	文部技官 室長	考古学	
	沢田 正昭	文部技官	保存科	
	菅原 正明	文部技官	考古	
	山本 忠尚	文部技官	考古	
	毛利 光俊	文部技官	考古	
	小林 謙一	文部技官	考古	
	八幡 扶桑	文部技官	専門職員	
	佃 幹雄	文部技官	専門職員	
	城	佐藤 興治	文部技官 室長	考古
		吉田 忠二	文部技官	考古
		須藤 隆	文部技官	考古
		土肥 孝	文部技官	考古
井上 和人		文部技官	考古	
宮	森 郁夫	文部技官 室長	考古	
	岡本 東三	文部技官	考古	
	安田 龍太郎	文部技官	考古	
跡	巽 淳一郎	文部技官	考古	
	宮沢 智士	文部技官 室長	建築	
	宮本 長二郎	文部技官	建築	
	中村 雅治	文部技官	建築	
発掘調査室	清水 真一	文部技官	建築	
	牛川 喜幸	文部技官 室長	遺跡庭園	
	田中 哲雄	文部技官	遺跡庭園	
計測修整調査室	高瀬 要一	文部技官	遺跡庭園	
	谷 拓実	調査員	遺跡庭園	
史料調査室	森 拓実	調査員	(非常勤)	
	狩野 久優	文部技官 室長	歴史	
	加藤 隆雄	文部技官	歴史	
調査	今泉 綾村	文部技官	歴史	
	細見 啓三	文部技官 主任研究官	建築	
部	横田 拓実	文部技官 主任研究官	歴史	
	栢本 安臣	文部事務官	事務総括(併任)	
	木寅 忠雄	文部事務官	(併任)	
	森田 光治	文部事務官	(併任)	
	飯田 信男	文部技官	(併任)	
	穴戸 雅子	事務補佐員	自動車運転	
	中村 美千代	事務補佐員	事務	
	橋本 伴子	事務補佐員	事務	
	中西 千枝子	事務補佐員	事務	
	石田 信子	事務補佐員	図書資料	
	池田 千賀枝	事務補佐員	写真	
	吉村 司朗	技能補佐員	整備管理	
	城本 きのよ	業務補佐員	庁務	
石川 千恵子	研究補佐員	公開		
泉谷 聖子	研究補佐員	資料整理		
赤阪 さよ子	研究補佐員	資料整理		
福原 まり花	研究補佐員	資料整理		

